

幼児教育研修（年齢別運動あそび3.4.5歳児）受講者数 3歳児48名 4歳児46名 5歳児49名
 3歳児 令和4年10月4日（火）15:00～17:00 足立区生涯学習センター
 4歳児 令和4年9月22日（木）15:00～17:00 竹の塚地域学習センター
 5歳児 令和4年9月15日（木）15:00～17:00 足立区生涯学習センター
 講師 日本体育大学 児童スポーツ教育学部 教授 近藤 智靖 氏

【内 容】～幼児期の子どもの運動あそびと発達について～

幼児期の運動あそびは、体力・運動能力の向上だけではなく、健康的な体の育成・意欲的な心の育成・社会適応力の発達・認知的能力の発達につながるという大きな意義もっています。各年齢の運動発達段階や3種類の動き（①バランス②移動③用具操作）について学び、わくわくドキドキしながら「やってみよう」と思える楽しい運動あそびの実践につなげていきます。



【受講者の感想】

* 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

- ・遊びの中から子どもたちと一緒に工夫した遊びに発展させ「勝ち負け」「できない」より、楽しく挑戦し様々な動きを身につけられるようにしたい。（3歳）
- ・体を動かす活動をどのように進めていけばよいのか、保育者は何を意識すればよいのかを詳しく知る事ができた。実技もあり、すぐに実践できる遊びを知る事ができて良かった。今回の研修で学んだことを保育に活かし、子どもたちと体を動かすことをたくさん楽しんでいきたい。（3歳）
- ・足立区の取り組み（日本体育大学との連携）、基礎理論、指導する際の基本的な考え方など、とてもわかりやすい講義で理解が深まった。（4歳）
- ・園全体で“投げる動きが足りない”と話し合ったところだったので、実技で得たことを早速実践してみようと思う。（4歳）
- ・安全性を確保した上で、子どもたちと思いを共有しながら、楽しい、もっとやりたいと思えるようなあそびを提供していきたい。（4歳）
- ・5歳児の発達段階から見て、ただ走るだけではなく、その走るということに自分たちで工夫し、ルールを作り、楽しむことで自己肯定感を育むことにつながっていることも改めて確認することができた。（5歳）
- ・この時期に群れて遊ぶことの大切さを再認識した。友達とのつながりのパイプ役となり、遊びを通して様々な経験ができるようにしていく。（5歳）
- ・教え込むのではなく、自然に遊んでいる中で楽しみながら多様な動きを経験し身につけていく事が大切だと知った。意識して取り入れていきたい。（5歳）